くみあいNEWS

第１５２４０号
2021年1月28日(木)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
WAKAYAMA WORKERS' UNION

組合ＨＰ：http://nssmwu.jp/　　代表内線番号　和歌山地区(本部)(54)－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

年始安全強化活動を展開中！

◆執行部年始激励巡視を実施

労働組合では、1月5日(火)から1月31日(日)にかけて、年始安全強化活動の一環として、各室・工場へ出向き、『執行部年始激励巡視』を実施しています。

今回は、執行部が6班に分かれ、各室・工場を当該支部の支部長と一緒に巡視し、組合員の皆様に『今年1年間の完全無災害達成に向けて、安全作業でよろしくお願いします』と声を掛けながら、激励を兼ねて各職場を訪れました。

我々、労働組合の願いは、「関西製鉄所和歌山地区で働く全ての皆様が元気に出勤し、家族が待つ家に笑顔で帰宅する」ということです。昨年の和歌山地区の安全成績は、不休災害10件、軽処置災害7件という結果であり、未だに災害の撲滅には至っていません。

今年も、顔の見える安全活動を中心に現場へ足を運び、各職場の状況を把握し、世界一安全な職場環境の確立を目指すべく、更なる安全取組みを展開して参ります。なお、年始の安全強化活動は1月31日(日)で終了となりますが、引き続き、労働組合の安全取組みに対し、ご理解とご協力をお願いします。



【激励巡視の様子】

◆年始安全祈願祭を実施

1月13日(水)10時00分より和歌山市の湊神社において執行部、中央委員会議長、青年女性部長の計12人が参加のもと年始安全祈願祭が執り行われました。

例年であれば、全支部長が参加し安全祈願を行うところではありますが、本年については新型コロナウィルス感染症拡大防止の為、支部長を代表し、中央委員会議長の4名が参加しました。

昨年は、関西製鉄所和歌山地区において休業災害は発生しなかったものの、不休災害、軽処置災害が多発し、依然として安全が確保できているとは言い難い状況にあります。

労働組合は、2021年の安全スローガン『かくれた危険　摘み取る意識　全員参加の「0」災職場』を掲げ、関西製鉄所和歌山地区で働く皆様の『安全と健康』を最優先とした各種取組みを引き続き展開して参ります。本年も組合員の皆様のご協力をよろしくお願いします。



【年始安全祈願祭の参加者】

◆執行部支部長合同早朝門前立哨を実施

1月14日(木)全社安全の日、関西製鉄所和歌山地区の各門において、執行部と支部長による早朝門前立哨を実施しました。(和歌山地区堺については、緊急事態宣言発令に伴い中止としました)

早朝門前立哨では、組合員のみならず構内で働くすべての方に対し、「今日も一日ご安全に！」との願いを込めた呼びかけを行い、出勤および退勤される皆さんからは力強い敬礼が返されるなど、構内で働く仲間の活力を感じました。

和歌山労組は今後も、関西製鉄所和歌山地区で働くすべての人の安全意識を向上すべく取組みを展開して参りますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。



【和歌山南門】



【和歌山北門】



【海南東門】



【和歌山東門】

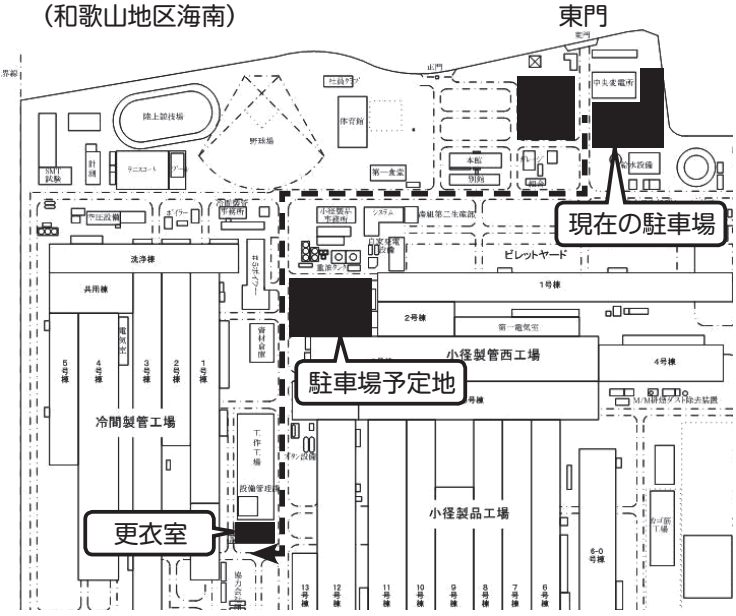
生活総点検活動進捗状況の報告

和歌山労組は、「職場生活･環境、労働条件、地域生活環境、国の政策制度・産業政策」などに関する課題・問題を掘り起こし、課題解決を図ることで組合員とその家族の総合的な生活改善をめざすべく、生活総点検活動を推進しています。その進捗状況を一部紹介させていただきます。

【内容】

海南小径製品工場の更衣室と駐車場までの距離が約1㎞と遠く、更衣室の近くに駐車場を設置してほしい。

(和歌山地区海南)



現在、図の駐車場予定地に設置できるよう調整しています。
今後も皆さんからの意見・要望を精査・点検した上で改善に向け取組んでいきます。

労働組合のプチ研修コーナー

～労働組合クイズ～



問1 **日本において労働組合に加入している人の割合は、労働者全体の何%だと思いますか？**

Q

① 約 17%　② 約 42%　③ 約 75%

A

＜正解＞　① 約 17%

＜さらに理解を深めよう＞

厚生労働省の発表によると、労働組合員数は 1,011 万人と増加しています。一方で雇用者数の増加に労働組合員数の増加が追いつかず、推定組織率は 17.1%となりました。

組合員数が増加する一方で、集団的労使関係の及ばない労働者（パートタイム等の非正規労働者）が結果的に増加していることは引き続きの課題としています。

問2 **わたしたちの会社には労働組合があります。労働組合の組織率が減少する中で、なぜ、わたしたちの会社には労働組合があると思いますか？**

Q

① 会社が労働組合をつくったから
② 私たち(働くもの)自身が労働組合をつくったから
③ 国が労働組合をつくったから

A

＜正解＞　② 私たち(働くもの)自身が労働組合をつくったから

＜さらに理解を深めよう＞

労働者が自らの意思で結集することにより「使用者と対等の立場で協議・交渉が行えるようになる」と法律で決められており、労働条件の交渉をする権利が保障されています。

わたしたちの先輩方は、自分たちの労働条件をより良いものにするため、労働組合を結成したのです。

もし、労働組合がなかったら私たちの会社生活はどう変わってくるのでしょうか？

わたしたちは、会社生活のなかで会社の制度や職場環境など、「もう少し良くなれば・・・」と考えることが沢山あると思います。しかし、一人ひとりがそれぞれ会社に対して意見・要望を言ったとしても取り合ってもらえないばかりか、文句とも取られかねず、改善に結びつけることは難しいでしょう。

労働組合があることで、職場の意見を取りまとめ、会社に対して改善要望すれば職場の意見として改善がはかられ易い面があります。こうした積み上げが今日の労働条件の向上、職場環境の改善につながってきているのです。また、何より労働組合の役割として最も重要なことは、「雇用の維持・確保」です。労働組合に加入することで、解雇要件に労働組合の同意が必要となり、会社側が一方的に解雇することができなくなります。雇用の不安が無くなることで安心して働くことができ、将来設計も可能となります。

基幹労連ホームページ・ＳＮＳについて

基幹労連では組合役員・組合員の皆さんが基幹労連の取り組みをタイムリーかつ身近に知ってもらえるようホームページやＳＮＳ（インスタグラム・フェイスブック）を用いて情報発信を行っています。

ご興味のある方は、ホームページへのアクセス・登録、ＳＮＳへのフォローをお願いします。

ホームページ
https://www.kikan-roren.or.jp/

インスタグラム
https://www.instagram.com/kikanroren2003jbu/

フェイスブック
https://www.facebook.com/kikanroren/

組合員投稿コーナー

今月は、「今年（2021年）の目標」をテーマに投稿を頂きました！



写真左　辻野さん

ご安全に！
ステンレス支部の辻野 晴紀です。

今、僕がハマっているロードバイクについて紹介します。

ロードバイクを始めたきっかけは、運動不足の解消やダイエット目的でしたが、今ではすっかりハマってしまい週末ライダーとなっています。また、時間や休日が合えば職場のみんなとロングライドにも出かけています。

（写真は高野山に行った時の写真です）

当初始めた時は１日で 30km 走るのも辛かったのですが今では 100km 程度走れるようになりました。今まで年間走行距離 1000km も走れなかった僕が３年目にしてやっと目標としていた年間走行距 3000km を達成する事が出来ました。

休みの日になんでこんなしんどい事してんのやろ？とか一瞬思う事もありますが、山を登りきった時や長い距離を走りきった時の達成感は格別なものがあります。

2021 年の目標（夢）は大きく走行距離 5000km を目指して頑張りたいと思います。

